

(一財)札幌市環境事業公社 情報誌 第11号

アンパス

un pas

フランス語で「一歩」の造語。一歩一歩お客様との絆を深め、
ともに環境への理解を深めるという意味を込めました。



『羊蹄山とフクジュソウ』小出 匡 作

「アンパス」第11号をお届けいたします。

今号は、西友厚別店様の廃棄物削減でのサステナビリティ活動の紹介、駒岡資源選別センターの施設紹介となっております。

本誌に対する皆様のご意見がございましたら、ぜひお寄せ下さい。

また、自社の紹介・PRなど、本誌に掲載希望の記事がございましたらお気軽にご相談下さい。

お客様 ご紹介

このコーナーでは、ごみの分別やリサイクルの推進に取り組んでいる、当社のお客様をご紹介させていただきます。

アンパス11号では、西友厚別店の谷越敬業務マネジャーをお訪ねして、廃棄物削減でのサステナビリティ（継続可能な）活動についてお聞きしました。



西友厚別店 谷越敬業務マネジャー

の強度が高く、プラスチックに比べ使用重量は30%以上も軽くなりました。

Q 容器回収リサイクルについて教えてください

さい

A 使用済みの紙パックや食品トレイを店頭ボックスで回収しています。3日ごとに回収していますが、牛乳パック等は15〜20

2000年にオープンした西友厚別店は、厚別通に面した敷地12,000坪を擁する大型スーパーです。駅前からやや離れています。無料の送迎バスを定時に運行して利用者やお年寄りに喜ばれています。札幌市内10店舗の食品ゾーンは全て24時間・365日営業で、仕入れ準備や店内廃棄物の整理等は深夜の時間帯を有効に活用していました。

KY（価格安く）をお店のモットーに、廃棄物の削減にも精力的な活動している西友の皆さまを取材しました。

Q 廃棄物削減の取り組みについて教えてください

さい

A 店内のごみは12分別しています。サーマテリアリサイクル（熱回収）とマテリアリサイクル（再資源化）の両方で、店舗から出る廃棄物をゼロにすることを目指しています。また食品の廃棄口スを2015年までに

2009年比で10%削減することが目標です。

Q 具体的な店頭での削減について教えてください

さい

A トレイを使わない真空パックや鶏肉以外に豚肉もノントレイ商品が発売されています。又カットフルーツやカット野菜の容器を、従来の石油製から、とうもろこしから作られる「ポリ乳酸」に変更しました。容器



店頭の容器回収ボックス



西友厚別店

kgにもなります。トイレトパーパーやテッシューパーに生まれ変わり店舗で販売しています。食品トレイも2〜5kg回収され、店舗内のベントレイの原料としてリサイクルされています。

Q レジ袋の使用量削減について教えてください

さい

A レジ袋削減の取り組みを開始して以来、

多くのお客様が素敵なマイバックをお持ちになり、マイバック持参率は年々上昇傾向にあります。2012年7月には西友全店でレジ袋の有料化が実施され、お客様のご協力で厚別店のマイバック持参率は2012年12月時点で77・6%に達しました。

Q 廃棄物削減のアピール活動はありますか

A 「エコニク学習会」を随時開催していま

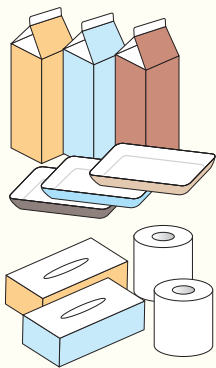
す。これは近隣の小学生と保護者を対象にした環境学習プログラムで、普段見ることのできないバックヤードやスー

パーマーケットの仕組みを体験できる人気のツアーです。

Q 廃棄物ヤードの状況を教えてください

A 12分でごみみの削減を進めているところ

です。廃棄物ヤードは広いスペースを確保しており、それぞれの廃棄場所を決めて従業員やテナントが自主的に分別できるように名板を取り付けてあります。各テナントから出る廃食油も1箇所を集めてリサイクルされております。



廃棄物のサステナビリティデータ一覧（西友全店）

指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
リサイクル率	% 70.0	75.0	82.4	87.0	90.6
食品循環資源の再利用等の実施率	%	44.3	52.1	75.6	77.7
廃棄物発生量	t 97,410	88,137	88,774	86,910	85,647
リサイクル量	t 68,152	66,039	73,110	76,010	77,560
最終廃棄量	t 29,258	22,098	15,664	10,900	8,087
ゼロ・ウェイスト店舗数	店舗	41	101	127	137
レジ袋辞退率（マイバック持参率）	%	19.6	42.6	50.9	52.1



駒岡資源選別センター施設紹介



4本のベルトコンベアに次々に流れてくるびんやペットボトルから資源に適さない不適な物を選び分けていますが、作業員は割れたびんの破片等で怪我をしないように防護手袋を2重にはめて注意して選別しています。

お盆やお正月、連休明け等の繁忙期には、びん・缶・ペットボトルがステージ杯山のように集まり、別棟の予備ヤードにも溢れるくらいの状況となります。

環境事業公社が各事業所から収集している「びん・缶・ペットボトル」や、札幌市がごみステーションから収集している家庭の「びん・缶・ペットボトル」は、市内に2カ所ある当公社の資源選別センターで中間処理され資源として生まれ変わります。

今回は南区真駒内にある「駒岡資源選別センター」をご紹介します。ここは平成10年10月から操業しており、札幌市内の約35%、年間約11,600トンもの資源物が集まってきました。

選別センターでは運び込まれる資源物のうち、スチール缶は大きな磁石で、アルミ缶は高速で回転する磁力の反発力を利用して機械が大半を選び分けます。しかしペットボトルは人間が目で見えて不適物を除去し、びんも白・茶・その他の三色に色分けして選別していきます。なお手選別作業は障がい者の団体に委託しており、現在39名の作業員が選別の仕事に従事しています。



平成25年3月発行

編集・発行／一般財団法人札幌市環境事業公社
札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル

●本誌に関するご意見、ご要望等

電話 219-2053 FAX 219-0882

●事業系一般廃棄物の収集全般に関すること

電話 219-5353 FAX 219-0053

<http://www.kankyou-sapporo.jp>